第３章　探究学習の波及の動態

１，各教科・科目や特別活動への探究学習の広がり

・「鹿追創生プロジェクト」を含む総合的な探究の時間だけでなく、学校で行われるあらゆる教育活動の中に探究学習の要素を見出しながら、生徒の主体的な思考と行動を引き出すことで探究学習が生起すると考えられている。

・鹿追高校では探究学習につながる教育目標や活動を軸として、学校教育全体が横断的に結びつくようなカリキュラム構造。→探究学習が総合的な探究の時間に閉じることなく、各教科・科目や特別学習にも落とし込まれている。

・2022年4月「3年間を見通した小論文指導」…探究学習の構成要素となる「考える力」「自分なりの意見を論理的に構築する力」「明確に表現する力」を養い、進路活動へとつなげる。→小論文指導を国語と進路活動だけでなく、既存の教育活動を意味づけし直し、有機的に結びつけることで学年・教科横断的な取り組みの実現が模索される。

２，「鹿追創生プロジェクト」から高校生議会へ

(1)鹿追町における高校生議会と生徒の反応

・町議会議員や町議会事務局から要請に応える形で、2020年度と2021年度に2年生を対象として高校生議会を行った。

・2020年度→議会事務局の職員から町議会の仕組みや地方自治の考え方などの説明、議会を訪問・見学、一般質問を行う流れを実際の議場で学んだ。終了後、「まちなか会議」も開催した。

・2021年度→一般質問、町長から「鹿追型ゼロカーボンシティ」を中心に現在の町の取り組みについて講演があった。生徒の興味関心から新たに課題を検討し、質問内容を作成し、高校の教室と議会の議場をオンラインで接続して高校生議会を開催。

・生徒の反応①政治の専門家を身近にした時のインパクト→専門的な視点は地域住民の代表としての責任と重みが違う。

・生徒の反応②生徒の学びに対するモチベーション→町のトップである町長や教育長などと実際の町議会さながらに答弁が行われることから、高校生議会にかかわる大人の生徒に対する真剣な姿勢や生徒の提案がモチベーションに。

(2)「鹿追創生プロジェクト」との接続とその可能性

・課題→教育課程上の位置づけが不明瞭で授業時数の確保。高校生議会の準備のためばかりに時間を使えず、通常授業との調整が必要

・ここで「鹿追創生プロジェクト」の探究学習の成果と経験が生きる。

・「鹿追創生プロジェクト」を通して、地元地域に対する問題意識や興味関心を高め、探究学習を進める過程で疑問を抱いたり課題を発見したりする。探究学習の経験が基礎にあることで高校生議会の質問作成についても円滑に行われていることがうかがえる。

・高校生議会の実践も探究学習の成果を発表する機会として位置づく。

３，教育課程外の活動への探究学習の広がり

・2022年度から「しかりべつ湖コタン観光ガイド」のプロジェクトが実施。生徒の主体的な探究学習を授業外でも後押しできる体制づくりを「探究Labo」と名付けて進めている。

・「探究Labo」の背景→①探究学習のための場を作ることにある。②探究学習を授業の枠組みを超えて継続可能とすること。

・生徒と教職員が探究学習に自然と興味関心を寄せてしまうような「学校の雰囲気」を探究学習の拠点となる「探究Labo」という場の力によって作り上げようと動きだしている。